一．次の傍線部の意味を考え、訳の空欄を埋めなさい。

1　神鳴る騒ぎに、え聞かざりけり。

【訳】雷が鳴る音で、〔　　〕。

2　昔思ふ草の庵（いほり）の夜の雨に涙な添へそ山ほととぎす

【訳】昔のはなやかな生活に思いをはせ、草庵の夜の雨に涙を催しているときに、これ以上涙を加えて〔　　〕、山ほととぎすよ。

3　かまへて参りたまへ。

【訳】〔　　〕。

4　いつしか梅咲かなむ、

【訳】〔　　〕梅が咲いてほしい、

5　御室に、いみじき児のありけるを、いかで誘ひ出して遊ばんとたくらむ法師どもありて、

【訳】御室（仁和寺）に、非常にかわいい稚児がいたのを、〔　　〕とたくらむ法師たちがいて、

6　人はよし思ひやむとも玉葛影に見えつつ忘らえぬかも

【訳】他の人は〔　　〕、（私は）面影が見えて忘れられないよ。

二．次の傍線部の意味を考え、訳の空欄に入る適切なものを選んで記号で答えなさい。

1　雪のいと高うはあらで、薄らかに降りたるなどは、

【訳】雪が〔　　〕高くは積もらず、うっすらと降っているのなどは、

〈ア．決して　イ．あまり　ウ．まさか　エ．非常に〉

2　あなかしこ人に語りたまふな。

【訳】〔　　〕人に語りなさるな。

〈ア．決して　イ．めったに　ウ．どうか　エ．あまり〉

3　人はいさ我はなき名の惜しければ昔も今も知らずとを言はむ

【訳】あなたがどう考えているか、〔　　〕けれど、私は身に覚えのない噂が立つのが残念なので、昔も今も（あなたを）知らないと言っておきましょう。

〈ア．さあ知らない　イ．理解できない　ウ．まさかわからないだろう　エ．決して言わない〉

三．次の単語の意味を考え、空欄を埋めなさい。

1　をさをさ

①（下に打消表現を伴って）〔　　〕

四．次の単語の意味を考え、空欄に入る適切なものを選んで記号で答えなさい。

1　さしたる（させる）＋「体言」

①（下に打消表現を伴って）〔　　〕

〈ア．決して…ない　イ．そうなるはずもない　ウ．たいした…ない　エ．あまり…ない〉

2　いかが

①〔　　〕

〈ア．どのように　イ．さあ　ウ．あまり　エ．なんとかして〉

3　あたかも…ごとし

①〔　　〕

〈ア．当然…のはずだ　イ．なんとまあ…だったことよ　ウ．かりに…としても　エ．まるで…のようだ〉

4　はや（く・う）…けり

①〔　　〕

〈ア．なんとまあ…だったことよ　イ．ようやく…した　ウ．かりに…としても　エ．まるで…のようだ〉

5　すべからく…べし

①〔　　〕

〈ア．なんとまあ…だったことよ　イ．当然…のはずだ　ウ．おそらく…はずだ　エ．まるで…のようだ〉

五．次の空欄にあてはまるものを選び、記号で答えなさい。

1　いかにもこれ書き果てんまでは、よも死に侍ら〔　　〕。

〈ア．る　イ．けり　ウ．じ　エ．む　オ．まし〉

〔　　〕

六．次の傍線部を現代語訳しなさい。

1　おほかた聞きも入れず、

一.
1 聞くことができなかった
2 くれるな
3 必ずお越しください
4 はやく
5 なんとかして誘い出して遊ぼう
6 かりに思いが消えたとしても

二.
1 イ
2 ア
3 ア

三.
1 ほとんど（めったに）

四.
1 ウ
2 ア
3 エ
4 ア
5 イ

五.
1 ウ

六.
1 まったく聞きも入れず、